



11月14日、深圳小学において記念品交換する
深圳小学校長と粟市長

ごあいさつ

平成28年12月6日

毎年のことながら、12月に入ると何となく、あわただしくなります。新しい年を迎える前に、いろいろと思いがめぐり、やり残したことがあるのではないかとこの気持ちになります。

今年は市制施行5年という節目の年でした。記念式典ということはあえて、いたしませんでしたが、テレビ局の公開収録を積極的に開催するなど、これまでとは少し違った野々市を全国に発信できたのではないかと思います。

11月13日から17日までの5日間、深圳小学教育交流訪問をいたしました。香港からバスで市内へ入り、深圳小学へと向かったのですが、沿道から多くの方々が並んで出迎えてくださいました。児童1,800名、それに先生や保護者の方が総動員ですので、迎えられたこちらが気恥ずかしくなるくらいの大変な「熱烈歓迎」を受けました。

深圳小学の雰囲気から、日本のものづくりや、科学技術に対する考え方を吸収しようとする気持ちが伝わってきました。すごいと思ったのは、子どもたちが3Dプリンターを活用し、実際に描いた設計図をカタチにしていました。さまざまなことに子どもたちに関心や興味を持たせようとしている姿勢がうかがえます。こちらから訪問した子どもたちもすぐに打ち解けて、ホームステイも楽しくできたようです。

小学校同士の交流をさらに発展させる思いで訪問したのですが、深圳小学の校長からも「小学校だけでなく、中学校、高等学校へと交流を拡大していきたい」とのお話もいただきました。これまで32年間にわたる教育交流がさらに発展することになると思います。

また、11月27日には今年も「BIG APPLE in NONOICHI」が開催されました。これは単なるジャズコンサートではなく、毎回前日にワークショップが開かれ、出演者とミュージシャンにあこがれる方々が交流できることが、野々市ならではのことで今年で22回を迎えます。これは自信をもって「野々市ブランド」であるといえます。

深圳小学との交流や「BIG APPLE in NONOICHI」は本当に長い間、続いています。遠く離れた国との交流は、言語や生活習慣などの違いから、ときにはそれが壁になってうまく互いの思いが通じないことがあります。しかし、それらを乗り越えて互いに信頼関係を築きあげるには、長く時間をかけ、何よりも無理せず続けることです。毎年、毎回、少しずつ積み重ねをした努力が今に至ったといえます。

年が明け、3月には毎年の「花と緑のいち椿まつり」と同時に「第27回全国椿サミット野々市大会」が開催されます。平成2年に当時の野々市町が椿を市町村の花にしている全国の自治体に参加を呼びかけ、椿を通じた自治体間交流、地域づくりを目的とした「第1回つばきフォーラム」が今日まで続く「全国椿サミット」の原型です。サミット誕生に関わった本市で「全国椿サミット」が開催されるのは、平成8年に珠洲市と合同で開催した「第6回椿サミット」以来、2回目となり、市制施行5周年記念事業でもあります。着々とポスターや案内パンフレットが仕上がり、中央公園では鑑賞展示施設、育成施設の工事も進んでいます。

淡い朱鷺色の椿『野々市』をイメージした開催テーマ「^{いにしえ}古から未来へつなぐ朱鷺色の^{とき}時間」。この大会が本市の未来へと、どのような花を咲かせるのかと、とても楽しみにしております。

新しき年、皆様にとりまして良き年であることを心からお祈り申し上げます。